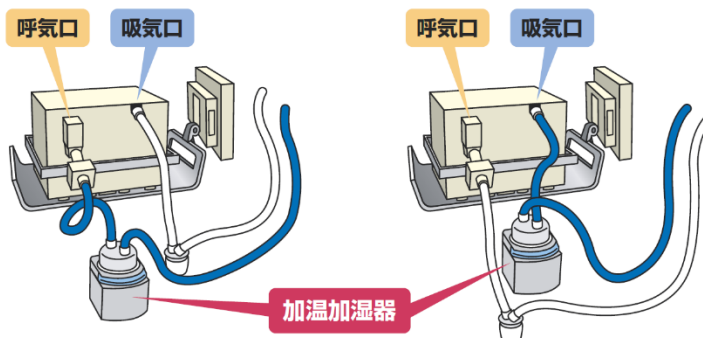


過去の記事 PDF と文章内で用いたファイルは技士会ホームページ(http://kcet.jp/?page_id=4177)に UP していますのでご参照下さい。

1. 事故が起こる(間違える)確率は二分の一？

自動車のブレーキ(左)とアクセル(右)を間違えて踏んで衝突・突入。

呼気(左※)と吸気(右※)を逆に接続してしまい加湿できなかった。 ※機種によって逆の場合もあり



「そんな事故私はしない」「自分は若いし大丈夫」と思っていませんか？

日本において、ブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違い事故は、2013 年に 6,448 件発生し、死者は 54 人出ている。高齢者や運転が下手なドライバーが起こすものと思いがちだが、10 歳代と 20 歳代が全体の 26%を占めている。Wikipedia より

似たような事がガソリンスタンドでも。ガソリン車に軽油を入れてしまいエンスト・炎上する事故が後を絶ちません。これもミスする確率は三分の一？

何を入れてもいい自由！

入れる事が出来る。
似たような物が複数ある。
私一人で入れる。

軽=軽油

確率は
3分の1

貴方は目の前にある
軽油、ハイオク、レギュラー
の3つから選ぶ事ができます。

↓
123円と98円？？
一番安い軽油を入れよう！



2. 見逃しが連鎖し事態は重大化する

臨床工学技士が人工呼吸器の回路を組んで点検を行い、患者に使用する。この一連の流れの中で、もしミスが発生したとしても発見するチャンスは何度かあるはずですが、そのチャンスを全て逃してしまった時に事故が起こります。「あそこで、こうしてれば、こんな事にはならなかったのに！」「単純なミスだったのに何故誰も気づかなかったの？」と後悔しないように、早期発見を行い対処する必要があります。

新規回路を組む際に誤った接続をしてしまう

はよ次の
仕事しよ

Wチェックのスタッフも見逃す・・・

あの人が組ん
だんやし
大丈夫やろ～

患者使用直前、直後のチェックで発見できず

急いでつけ
なあかん！

夜勤スタッフも発見できず・・・

呼吸落ち着
いてるOK

翌日の日勤帯スタッフが間違いを発見する

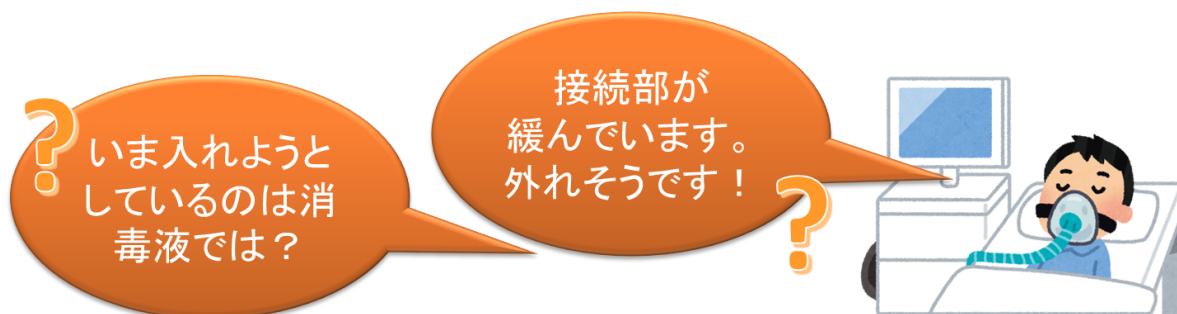
加湿でき
てない！

3. 自動車運転と生命維持管理装置操作

先に例を挙げた自動車と医療機器では以下のような共通点があります。

- 操作には免許が必要。
- ミスを起こすと人命に関わる。事故の危険は日常の中に多く潜んでいる。
- 自分がミスをしていなくても事故に巻き込まれる事がある。

最近の自動車は自動ブレーキなど事故を予防する技術も普及してきています。一方医療機器の場合、何かが起こった時に警報(アラーム)を発生させる機能は多くありますが、事故やミスそのものを未然に防止・阻止する機能はまだまだ少ないです。よって、事故・間違いを防ぐには使用者が確実に注意・予防する必要があります。



4. 過ちは繰り返される

「軽自動車に間違えて軽油を入れた」「加湿器に間違えて消毒液を入れた」

やっている事は全然違いますが共通点があります。それは同じような失敗を、また他の誰かが起こしてしまうという事です。不幸な重大事故が発生しニュースで報道され、その恐ろしさを多くの人が知ったとしても、何年か経てば認識や記憶が薄れ、その貴重な失敗経験が生かされずに同じような事故が起こってしまいます。私たち臨床工学技士は、勉強会や安全講習会を何度も何度も繰り返し実施し、生命維持管理装置が安全に使用されるように努力を続ける必要があります。



消毒薬誤注入事故

1999年(平成11年)2月

都立広尾病院

術後の患者の血管内に血液凝固阻止剤と消毒液を間違えて注入し、患者が死亡した

幼児治療で加湿器に消毒液入れるミス 名鉄病院 「精製水と間違えた」と謝罪

2016/6/10 19:00 印刷 メディカル 加湿器

名鉄病院（名古屋市）で、肺炎の1歳男児に使った医療器具の加湿器に、水と間違えて消毒液を注入するミスがあった。病院は家族に謝罪した。

男児に健康被害は出ていないが、病院は経過観察を続けていく。

「声出し確認、指差し確認を全職員に徹底」

名鉄病院は2016年6月10日、J-CASTヘルスケアの取材に今回の経緯を説明した。男児は5月24日に入院し、「酸素テント」を使った治療を始めた。酸素テントとは、患者の上半身をプラスチックフィルム製のテントで覆い、湿度と温度を調節しながら高濃度の酸素を送り込む医療器具で、主に肺炎やぜんそくの患者に使われる。本来、不純物を取り除いた精製水を入れるところ、看護師が誤って消毒液を入れてしまった。包装された状態で同じ棚に置かれていたため、勘違いしてしまったという。治療が終わった27日、加湿器を確認してミスに気付いた。



(記事;田辺中央病院 河原俊介)